

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番10

TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝

高橋利春・加瀬由紀子・屋代健

近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

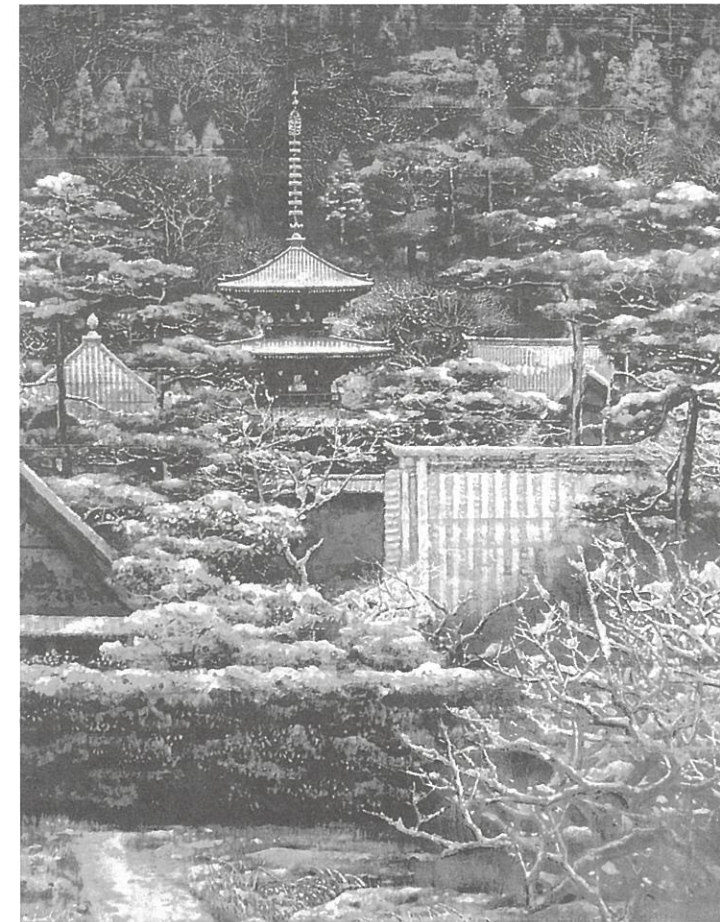
後援・株式会社アサヒ

印刷・(株)北越時報社

『春夏秋冬』四季を甘受し 自然と親しく、楽しく、喜ぶ生活

翠巖龍弘

雪も下の写真のように薄らと積もると、木々や屋根も薄化粧したようにとても綺麗で、ついく見とれてしまい、雪見酒などと風流な気分にもなります。しかし、今年のように寒波が度々やってきては豪雪地帯で生活されている方々にとっては、心身共に疲れきった冬となったのではないでしようか。



後藤純男氏の版画

車と往復しました。

この時期は川端康成の小説「雪国」の如く、トンネル一つで天気が反対です。帰り道、埼玉県・群馬県と青空の中でのドライブが、トンネルを出ると路面はアイスバーン状態、視界も悪く、ついく肩に力がいはい有様。狭い日本なのにこれ程氣候が違うものかと溜息がでる思いでした。子供の頃は、夏は暑く、冬

ご家族の皆さままでご覧ください

は雪が積もり寒いのが当たり前と思っていたものが、学生時代の冬を雪のない地で過ごして毎日が晴天の冬の生活を知り、雪国に暮らしていても、日本中の同時間の様子がテレビなどで観られ、また簡単に雪深き地から雪のない太陽輝く地へ行ける時代であるが故に、生活環境の違いに戸惑い、雪国の暮らしの大変さを感じてしまいがちです。

生がノーベル文学賞の受賞記念講演に「美しい日本の私」として
「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて すすしかりけり」と、道元禅師の和歌をその講演の冒頭に紹介されました。越後の名僧良寛さまの弟子へのかたみの歌として
「形見とて 何かのこさむ 春は花 山ほととぎす 秋はもみぢ葉」と詠まれております。自然には私がありません。春夏秋冬、それぞれ絶対の姿を具現しております。

しかし、それだけに喉が渇ききつた後の一杯の水が何よりも美味しく思えたり、小用を我慢に我慢をしてトイレで放出できた時の爽快感と同じように、雪国の人々にとつての春の到来の喜び、感動は理屈抜きに大きなものがあります。

私達は縁あってそれだけの地域で生れ育ち、社会人となり生活の場所も職業などによって色々です。北国、南国、日本海側、太平洋側等々。地域によって四季の様子も違いがあります。氣候に根差した文化、生活習慣の違いもあります。それぞれの地にしっかりと腰を据え、私達に与えていただいた素晴らしい春夏秋冬の四季を甘受し、自然と親しく、楽しく、喜ぶ生活をしていきたいものです。

中国の禅僧、無門慧開禪師(一一八二〜一二六〇)の「無門関第十九則平常是道」の頌に
「春に百花有り 秋に月有り 夏の冷風有り 冬に雪有り 若し閑事の 心頭に掛くる無んば 便ち是れ人間の 好時節」と読まれております。また、川端康成先

如何に生くべきか、ということとは文学者の問題じゃなくて、人間全体の問題なのである。 坂口安吾『新人へ』

【日々精進(二十一)】

学ぶとは真似をすることから

近藤 真弘

早いもので二度目のご本山總持寺上山から一年八ヶ月が経ちました。上山前はハイハイしかできなかった長男の真人も今では元気に走り回り、覚束ないながらも言葉話し、一生懸命会話をしようとしています。小さな子供の成長はあつと

いう間だとよく聞きますが、まさにその通りだと最近実感いたしております。

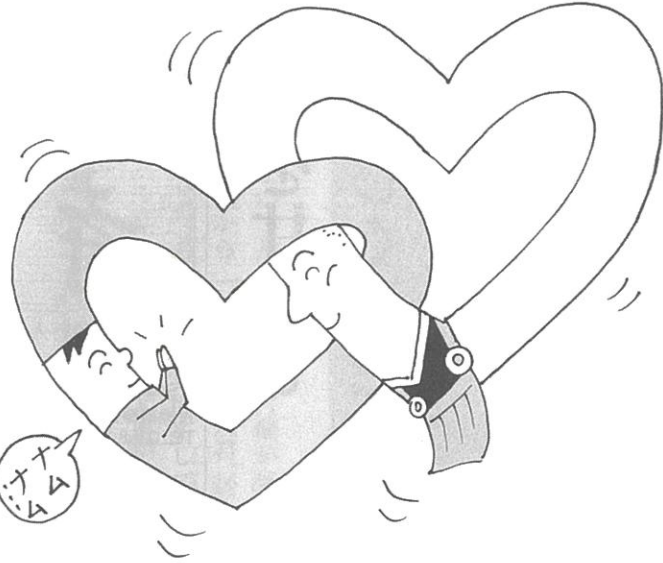
月に一度位しか会わないので尚更そのように感じるのかもしれませんが今は二人の子供の成長が楽しみです。同時に無事に育ててくれている残った家族に感謝の日々です。

今、私のいる總持寺は学校法人として幼稚園や中学、高校、大学を運営しています。そんな関係で私も学校行事に出席させていただく機会が何度ありました。先日は幼稚園の生活発表

会といういわゆるお遊戯会を見学する機会がありました。ステイジの上で一生懸命歌や踊りを踊っている園児の前でステージの下では保育士の先生が園児たちにわかるよう同じ動きをしているので

す。いわゆる園児は先生の真似をしているわけです。真似をするというのは面白いもので、私の子供も覚えての言葉や動作はすべてと言っていいほど親やおじいちゃん、おばあちゃん

らではの真似だなあと思う一つは、仏様の前で手を合わせた合掌の動作を所々でやってみたり、お経の一部を覚えて口ずさんだり、お客様が来られてどうぞこちらへと促す動作をしてみたりと、これらはすべて家族の行ったことの真似です。そしてそんな真似して行った動作や言動の一つ一つに

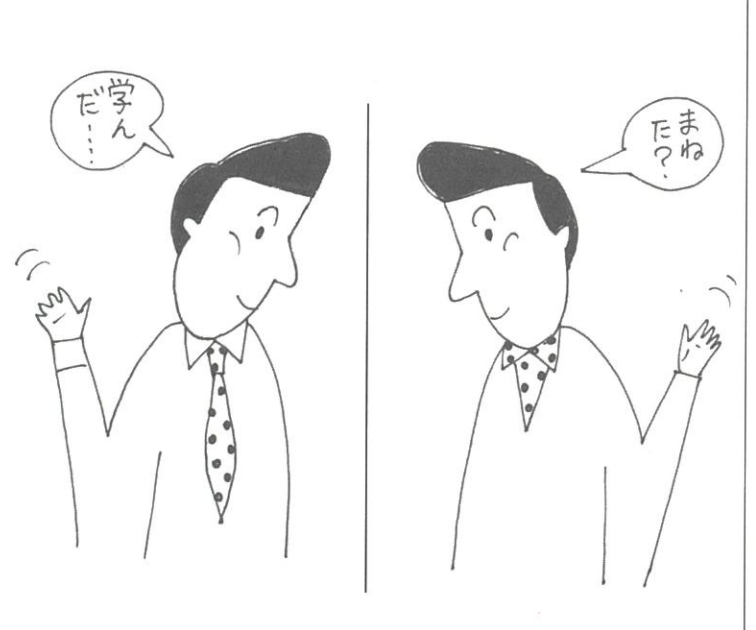


こちらは一喜一憂で成長を喜びます。

小さな赤ちゃんや子供の真似するという行為は成長の証でもあり、とても嬉しいことです。

しかし、年齢を重ねいつの頃からかこの真似するという行為が逆に悪いように解

釈されていきます。「人の真似ばかりして」とか「だれだれに真似された」などとま



宮崎禪師様はこんなことをおっしゃっております。「学ぶということは真似をするというところから出ている、一日真似をしたら一日の真似やそれで済んでしまったら二日真似してそれで真似せなんだらそれは二日の真似、ところが一生真似しておいたら真似がほんまもんや」と。

子供の時でも、大人になっても真似という行為は学ぶ行為なのです。しかし分別が

つく大人が真似すると自己が無いように取られ他力本願的にとられてしまいます。真似ることは決して恥ずかしいことでは無いのです、その中にしっかりと自分を持ち信念を持つていけば。

子供の真似るは純粹な行為です。そしてそこからしっかりと学んでいます。親として私も学ばれていることを改めて自覚して多くのことを真似させてあげられ

メキシコからの女の子

高橋 利春

我が家にメキシコからの可愛い女の子がやってきました。ライオンズクラブ活動の一部として引き受けたもので、名前はマリア・カルメンです。

十二月二十二日十二時五十六分着の新幹線で長岡に連れてきて頂き引継を受け、いよいよ我が家へ。車中十分位なのですが「家は寒いですか？」と聞くので「中は暖かいよ」と片言の英語で話し、一応安心した様ですが、外は雪が積もっていて真っ白！



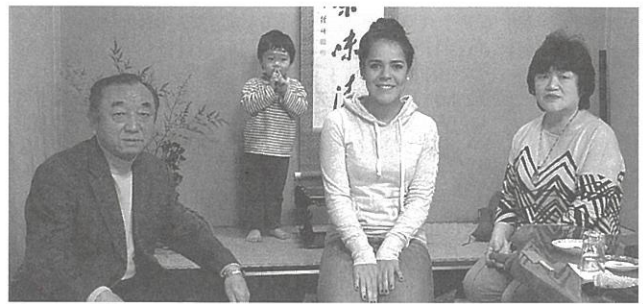
今年雪が早く、メキシコでは雪はなく、初めての体験とのことでした。

家中の暖房は全てつけたのですが、彼女は防寒コートやベッド、トイレ、風呂などの使用方法やリビングでの座席などを説明し一段落、来日生の心得とレポートの提出等を片言の英語で説明すると、「オーケー、オーケー」と本当にわかっているのかと思いましたが、頭の良い娘で理解したようでした。「風

呂は朝のシャワー派だが良いか？」との事、私も朝風呂派なのでちょうど良いと言ったら喜んでいました。

夕方には妻とスーパリーに買い物に行つて、夕食です。娘家族四人も呼んで一緒に食べようという事で、ステーキと刺身と煮物、喜んで食べていました。中三の孫が英検三級なので話してみたいという事で呼んだのですが、あまり話せません。孫に「大した事がないね」と言ううと、「日本は文法を先に教えるので会話は上手に話せない」とぼやいていました。何はともあれ外国人と会話をしたという事は大変良かったと思います。

翌日の朝食は和食、昼はラーメンと餃子二切、どちらも美味しく「ジャパニーズヌードル&ギョーザ」と覚えようと一生懸命でした。午後には友人の店マリアージュタカラで、着物体験です。二十歳の記念に撮る



振り袖を着せて頂き、素敵写真撮って頂き、マリアも自分のカメラにも写してくれと大はしゃぎ、大変喜んでいました。

夕方には日本のお寺を見せたいと思っていたので、菩提寺の安善寺でご住職の説明を受け、木魚や太鼓などを打たせてもらい、本堂を見学して、「大きくて綺麗だ」とびびくりしていました。夕食はそのまま安善寺ご住職のご家族と友人の一家とご一緒に頂きました。内容は寒鯛のしゃぶ



しゃぶ、山菜、ステーキ、塩烏賊等盛り沢山でした。寒鯛のしゃぶしゃぶなど美味しい美味しいと言つて何でも喜んで食べる良い娘でした。豆腐と山葵、トマト、甘い饅頭は好まないようでした。

二十四日昼は回転寿司、さび抜きでしたが好みも良く解らないのでそれ程喜ばれません。クリスマスは蓬平温泉和泉屋で生まれて初めて日本の温泉入浴です。もちろん全裸で、最初キョトンとしていたようですが、妻が温泉タオルで隠して入るのが日本のマナーと教えたなら納得して入って、これまた喜んでいました。私が一緒にいたのでこれ以

上詳しく報告できません。暖まつての夕食。お膳が綺麗に盛りだてられたびびくり、「オー、ビューティフル、エレガント」と言つて豆腐を残し完食でした。

食事の後はトランペットとピアノのクリスマスミュージックを聴いて「ベリーナイス、クリスマスプレゼント、サンキュー」と御礼を頂いて、満足満足でした。翌日は朝食バイキング。小千谷の錦鯉、ちぢみ織りを見学し、産業デザインに興味があるとの事で、長岡造形大学を案内して、キャンパス全体がデザインを重視して設計してあるが、留学してはかがですかなどと説明し、市内の記念館、博物館などを案内しました。とにかく積極的な娘で日本語を覚えようとしたりして、我が家族も一緒に楽しんで一週間を過ごしました。

測量・登記の仕事柄、暮れは特に忙しいのですが、雪が早々と降って積もってしまい、あきらめの境地と休みが重なって私たちも一緒に楽しませて頂きました。

柿川を長岡の景観遺産に

小出 正三

はじめまして。私は長岡のまちなかキャンパスで「みんな大学」という発想塾を開いている小出正三と申します。

ところで突然、皆様にお聞きします。「最近、柿川の川面を眺めたことがありますか？」

長岡は古い歴史を誇る町であります。二度の戦災もあり、町中その歴史を感じさせるものは多くありません。その中で柿川は江戸時代から流れを変えていない歴史遺産です。更にはハグロトンボの群生や鴨たちの生息地として町中に残る自然遺産でもあります。また、川筋をよく見てみれば、全国に先駆けて整備された船着き場もあります。これだけの素晴らしい遺産が、しかし今、私たちの暮らしの中に組み込まれていない。それが残念でなりません。

我が祖母は明治生まれの



気丈夫でしたが、祖母はいつも「川西に行つてはいけない」と申しておりました。これは信濃川ではなく、柿川の土地です。川西には町名に「町」が付く場所は本当に少ないですね。また、川東の

つきます)表の世界だとすると、柿川の西は三業(料亭・待合茶屋・芸者置屋の三業)の土地です。川西には町名に「町」が付く場所は本当に少ないですね。また、川東の

料亭のほとんどは仕出し屋を意味する「魚」の文字がつくのに、川西の料亭の名前にはほとんど魚が付かず、しかも柿川に沿つてお店構えがされているのも、すべてそういった歴史の名残です。

もちろん、この川は水運の川でもありました。呉服町、船江町といった名前には往事の賑わいを感じさせる響きがあります。柿川には江戸と現代を結び、長岡の粋を今に残す貴重な市民の財産。しかし、誰もあまり目を止めない、生かされていない財産なのです。

「みんな大学」では、昨年からこの川にカヌーやパドルボードを浮かべ、川面からこの川を見直す運動をしています。またその一環として春は「観桜」、秋は「観月」を(細々とですが)行っています。歴史を言葉よりも体験として感じてみたかったからです。

川面から見た長岡は風情のある美しい町です。そして柿川を復活させることは、文化都市長岡の再生につながるかと信じます。

確かに柿川は多くの水害



を引き起こしましたから、川に背を向ける生活が長かったのも仕方ありません。しかし、柿川にはそれを補つてあまりある魅力があります。雪が溶けたら、あなたもぜひ柿川を歩いてみてください。



小出正三氏プロフィール

1963年に株式会社紅屋重正の6代目、小出正一の息子として生まれる。表町小学校、東中学校、長岡高校を経て、国際基督教大学(ICU)に進学。卒業後、株式会社大広に入社。新規ビジネス開拓専門のマーケッターとして活躍。その間、競合プレゼンテーションの獲得4割を誇る。その後、株式会社マッキャンエリクソン、オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン株式会社などの外資広告代理店に勤務。2000年、当時としては国内では数少ない「ブランドマネージメント専門のコンサルティング会社」ブランドロジスティクス有有限会社を設立。日本有数のトップ企業から、新進のドットコム企業まで幅広いビジネスのブランド開発に関わる。2011年より長岡でマーケティングの発想法を教える「みんな大学」を設立。現在に至る。

なにはともあれ家族の健康第一

屋代 健

この度、季刊誌の編集スタッフの仲間入りをさせていただくことになりました。屋代と申します。何卒よろしくお願致します。

今回はまず、私の自己紹介を少しさせて頂きます。仕事としては、住宅、マンション、アパート、店舗、工場の新築、増改築等の建設業及び不動産業を営んでいます。会社が創業して今年で三十五年目、父親が起業して私で二代目になります。

また、我が社のオリジナル商品、カマボコ型の鉄骨造の建物、YHハウスは中越・上越地方のJ&Aさん、農機具店さん、金物店さんから販売していただいています。主に農家さんの農機具格納庫、作業所、車庫として建てられています。雪おろしがいらぬ建物として、地域の方から認知していただいている、十日町・津南地域で行われる『大地の芸術祭』では、芸術家の目に留



まりアートになって展示されました。

住宅については、夏は涼しく、冬は暖かく、結露しない省エネ住宅「ハイブリッド住宅」をお求め易い金額でご提案させて頂いています。

また、当社の経営理念は、家づくりを通じて安心・安全で幸せな暮らしを提供す

る事です。特に子育て世代のご家族に、家づくりの正しい順番をお伝えして、失敗しない家づくりをして頂きたいと思っています。さて、昨年娘が小学校に入学しました。娘は三歳からバトンを習っています。最近はいベントの出演依頼も多くなり、土日になると彼方此方

に行っています。昨年四月のアオーレ長岡のこけら落としに出演、十一月にはディズニールランドに出演、夢の舞台で演技をしました。今年二月にはバトンの北陸大会が富山でありました。娘も初めて出場しましたが、小学校低学年部門で三十五



人中二十九番目でした。同じクラブのメンバーの中に

第37回
全日本バトントワリング
選手権大会
2012年 3/23・24・25



は昨年の全国大会で優勝した女の子もいます。子供達以上に保護者のママ達も衣装を作ったり、彼方此方に行ったり大変そうです。

私は運動不足がたたってお腹の肉が付いてメタボリックの手前までいったので、娘の入学を機に、保護者のソフトボールチームに参加させてもらい体を動かしています。以前は、休みになると家族で日帰り温泉に行ったりしましたが、最近家族各々が忙しいのでなかなか時間が取れません。何はともあれ、家族が健康で過ごしていければと思っています。

みなさま、これからどうぞよろしくお願致します。

旬歌 愁灯

【二十五話】

「トイレの神様」

— 世界トイレ事情 —

加瀬由紀子

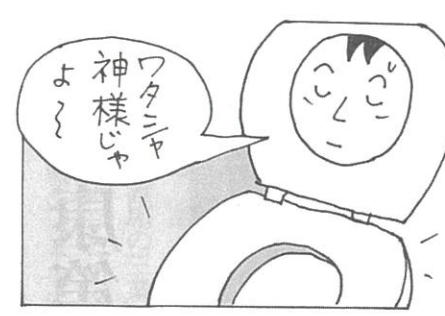
「トイレの神(紙ではない)様」という一〇分にも及ぶうんざりする歌がある。植村花菜が歌っていたこの曲が評判を呼び、一、三年前にレコード大賞とか紅白歌合戦にも選ばれた。「トイレにはきれいな女神が住んでいるから、いつもきれいにしなさい」と言っていたおぼあちやんだったが、感謝の表現もできないうちに他界してしまった。今自分はその言葉をかみしめてトイレを磨いている」といった、至って真面目な内容の歌詞なのだ。

先日友人数名とカラオケに行った際、一人がこの曲を歌うと言い出したので部屋の空気が一気にトーンダウン。が、ラッキーなことに曲目一覧表に掲載がなかった。一同、顔を見合わせ、ホッと胸を撫でおろす。こんな変わった曲を選ぶ友人にあきれながらも、まあ私の友人だからそんなところだと納得し

しかながら、たかがトイレ、とおろそかにしてはいけない。女神様が住んでいなくても人生のかかりの時間を費やす重要な狭き空間ではないか。滞在時間トップは睡眠時、一番目は食事、そして三番目が排泄(データによれば一生の三分分に相当)だという。生命維持に必要かくべからざるこれらを時間の浪費とは呼ぶまい。

ときに一昨年のパキスタンのトイレ事情は、女神様どころか悪魔が住みついているすさまじさだった。カラコルムハイウェイ走行及びバルトロ氷河トレッキングの始どは野天で、山側に女性谷側に男性と振り分けられ、それぞれ岩陰や茂みに紛れて用を足す。荒天時といえども速やかに行わねばならない。(因みにあの国の男性たちの大半は、しゃがんで長いシャツで覆い小用を足す)

氷河ではツアー会社がトイレ TENT を目立たない場



所に設置、自分の TENT から防寒服、登山靴を着用、ライトをつけてたどり着くまでに既に数分を要する。下痢などしたら睡眠時間の殆どを、トイレ往復に費やすことになり、体力の消耗が甚だしい。

市街地では、ガソリンスタンドや食事に寄つたレストランのトイレを利用するのだが、ペーパーももちろんなし、(小さな手桶がおいてあり、水を汲んで左手で洗うのが一般的使用方法である) 悪臭、ハエ、汚れを我慢するの



インドの列車のトイレ。揺れているためピンボケで失礼

が普通で戸は閉まらず鍵もなく(逆に入れられないように施錠されていたり)旅行者は次第に野外の方が快適、と思うようになる。

パキスタンの前年に出かけたインドにおいても、トイレ事情は似たようなもので、ベナレスからアグラに移動する列車のトイレもひどかった。(写真をご覧ください) 揺れるたびに汚れた部分にずり落ちそうになる危険なトイレだ。

そもそもトイレを掃除する、という発想がなく、不浄な場所だから当然と思っ

ているらしい。待てよ、手桶の水を左手にすくって洗うのって、日本のウォッシュレットの原点だし、究極のエコではないか:「ウンは自分でつかめ」とか「ウンの付き」ということわざはここから生まれたのか:

トイレの中に物乞いの女性がいったりするのもインド。またヨーロッパといえどもトイレにもジプシーがいてチップをせがまれた。そしてパスポートや財布をすられた日本人同行者もいた。ジプシー女性の険しい目つき、さらに険しい目つきになった日本人被害者を覚えている。決して安らぎの場所ではない。

二十年前に北京で開催された国連女性会議に出席時、立ち寄った盧溝橋で有料トイレに入った時のことだ。こちらは「便所屋」なのか、トイレの一隅に所有家族の居住場所があった! しかもトイレは個室ではなく、扉もなく、掘った便槽が数個、並んでいる。(これを「ニイハオト

イレ」と呼ぶそうだ) しかたなく同行数名、隣を見ないようにしてしゃがむ。聞けば周辺の家々にはトイレがなく借りに来るか、洗面器のような器、いわゆる「オマル」に用を足して外に捨てるのだとか。歴代王朝の高貴な住人も使用していたというから「汚丸」などとバカにしてはいけない。それは「コマル」。

紀元前二百年頃の中国のトイレは豚小屋の上に乗ってあって、劉邦の皇后、呂太后は、皇帝の側室の手足を切断し、トイレに投げ込み、「人豚」と呼んで苦しんで死ぬのを楽しんだ、という恐ろしい逸話が「史記」に記されている。余談だが、呂后、西太后、江青の三人を「中国三大悪女」と呼ぶのだそう。

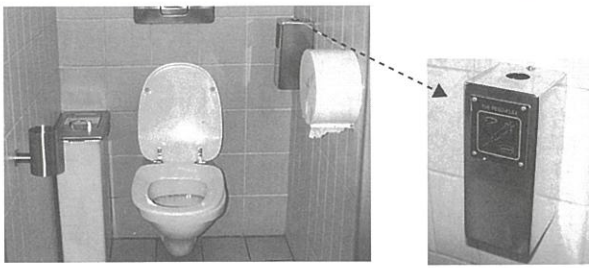
その中国も北京五輪以後、急速に近代化が進みトイレ事情も改善されている。ただ広大なお国柄、行き渡るまでにまだまだ年月を要するだろう。

パリの「モンマルトルの丘」付近の古い路地では、中世の頃、沿道の家々から汚物を道路に捨てる習慣があった。不潔だった、ペストの

死への恐怖は、しかしながら、生への執着の裏返しに過ぎない。 唐木順三『詩と哲学の間』

蔓延の温床になっていた、とガイドの説明があった。ベルサイユ宮殿にもトイレは見当たらず、こちらでも外に捨てていたようだ。

またベネチアのレストランのトイレは、あふれて水びたしだった。「日本人は、なぜいちいち水を流すのか!」と怒るオーナーに納得がいかない私たち。運河に「ウン〇」が正解なのかと文句を言ったが、毎回の使用時に水は流さないので正しい使用方法だという。出された「イカスミスパゲッティ」も何故か薄汚れて見え、食欲を失った



コペンハーゲン空港のトイレ(左手側に注射器を入れる箱が設置)

ものだ。

かえりみれば、日本の汲み取り式トイレは街路を汚すこともなく、雇用とリサイクルに役立つ理想的な仕組みだった。

下田の奥、かつては分校だった吉ヶ平山荘を訪れたことがある。トイレの下はチヨロチヨロと水の音がして、そのまま門川に流れてゆく「水洗」、真の「川屋(廁)」だった。しかし豪雨時など増水し、流れる濁流が迫っていて恐怖で用足しをためらったものだ。

聞き及ぶとバンコクのトイレも下は池になっていて魚がフツを食べるのだとか。そうして育てた魚(あいにくタイではない)は最後に食卓に乗ることになる。これも立派なりサイクルだなあ。友人の住むデンマーク、そのコペンハーゲン空港のトイレにはウーンとうなってしまった。ヤバイ薬品使用者が捨てる注射器を入れる箱が堂々と設置してあるのだ。(写真を「らんください」ガイド曰く、エイズ予防に有効な対策という。西欧人仕様のサイズの大

きな便座に座ったらお尻が落ちたとか、便座の位置が高くて飛び乗ろうとして落ちたとか、笑えない「落ち」もよく耳にする。またビデの使用法がわからず、中腰座りで用足しをした男性や、顔を洗った(一)旅行者もいるとき。

チヨモランマ(エベレスト)に二回登頂した大山光一氏の講演会で、デスゾーン(標高八千メートル付近から上の生命維持限界線を指す)でのトイレについて質問した。たちまち排泄物は凍ってしまうとか。ただお尻はなかなか凍傷にかからないのだが、最終キャンプでは紙おむつやシピン等を使用し、外に捨てるという。その上を氷雪が覆うので、既に三千人から登っている頂上の標高は、年々高くなってきているそうだ。ゴミや遭難者の遺体も加わってのことらしい。

見るに見かねて世界最高峰のゴミ回収を始めた野口健氏の行動も理解できるが、過酷なトイレには覚悟がいる。かつては垂れ流しだった日本の北アルプスなど、山

小屋のトイレも最近はいよいよオトイレやカセットタイプが普及し、環境面にも配慮している。尾瀬の小屋数件はウオシユレット完備だし、奥黒部・太郎平小屋付近の富山県が設置したトイレには、携帯トイレ回収箱までついている。(写真参照)



北アルプスのトイレにあった携帯トイレ回収箱

このように世界所変われ

ば、トイレも変わる。そして誰もが思う。日本の暖房便座付ウオシユレットは最高、ダブルの柔らかいトイレレットペーパーも最高、日本人に生まれてよかったと。

再度書くのもためらうシモノタにて、今回まとめて格調高く決死的覚悟で撮影した写真と共に、恥を忍んで載せていただきました。「瞬下臭投」! おあとがよろしいようで。

『KAKA笑の会』十周年ありがとう!

平成十五年の夏、『新しい文化の発信基地として、日本文化の基である仏教に感心を持ち、現代に生きる仏教の発信の場として安善寺をもっと身近に親しみ、活用してもらう』ことを理念に発足したのが「KAKA笑の会」です。

様々な催し(別表)に大勢の皆様からおいでいただき、実行委員の協力で支えられて、本年十周年を迎えることができました。今秋には、皆様へお礼を込めて十周年記念のイベントを企画中です。どうぞご期待ください。

回	開催日(平成)	催し内容	出演者(敬称略)
1	15年 7月 25日	ハーブティとチェロを楽しむ夕べ	長沢喜美・片野大輔
2	15年 11月 8日	叙情歌を楽しむ夕べ	鈴木 健
3	16年 5月 28日	精進料理	小金山泰玄
4	16年 9月 17日	ギター演奏と講演の夕べ	島山徳雄・山下照美
5	17年 5月 21日	秦琴演奏の夕べ	深草アキ
6	17年 10月 14日	シンポジウム「サーブスする楽しさ…」とオカリナ演奏	黒岩卓夫・吉崎孝岡本真弓
7	18年 5月 19日	ジャズコンサート	ブルーノート・ジャズ
8	18年 10月 27日	精進料理	小金山泰玄
9	19年 6月 29日	サマータイムコンサート	五十嵐郊味・斉藤淳子
10	19年 10月 12日	細禱三味線と箏の邦楽ライブ	山本善乃・上原潤之助
11	20年 5月 2日	シャンソンコンサート	清水康子・橋井亘他
12	20年 10月 24日	精進料理	小金山泰玄
13	21年 10月 30日	異文化コンサート	田中ケイ子・今泉入りこ他
14	22年 5月 27日	秦琴演奏の夕べ	深草アキ
15	22年 11月 6日	精進料理	小金山泰玄
16	23年 4月 2日	東日本大震災炊き出しボランティア	KAKA笑会員
17	23年 4月 24日	東日本大震災炊き出しボランティア	KAKA笑会員
18	24年 6月 23日	落語	入船亭扇辰

お別れ

(平成廿五年一月〜二月末まで)
本間育子様 一月四日寂
東京都杉並区

鈴木マサ様 二月廿三日寂
兵庫県川西市

山田テル様 二月廿八日
長岡市大島新町

ご冥福をお祈りします



ボブの独り言

真人君の初めての経験

ボブの独り言

三月の声を聞くと言うのに、いつまで降り続けば止むのでしょうか？ 誰も踏み人がいない庭はまるで真っ白なグラウンドのようで、時折陽が射すとキラキラと輝いてそれは綺麗なのですが、こうも降り続けられるとさすがに寒がりの私を筆頭に、庭の木々たちの悲鳴が聞こえてくるようです。

お寺にお客様が来られ、偶然私の姿を見られると「大きな猫だなぁ！ こんな猫初めて見た！」とよく言われます。

ノンが訓練に行つて下が静かなので、それを幸いとはかり、エサを食べる時と用足しをする時だけ二階に行つて、夜は住職のベッドの上で休ませてもらっていたのです。毎日が快適で幸せな日々でしたが、それも長くは続きませんでした。ある日「ボブに布団の上で寝られると重



くて寝返りも打てない」と言われ、とうとう部屋から出されてしまいました。ちなみに私の体重は八キロ？くらいで、生後五ヶ月を迎えた次男の悠真君（普通よりジャンボなのですが…）と同じくらいのです。

最近では言葉が話せるようになった真人君話す言葉も大人の真似をしていることが多いのですが、この前もいきなり小さな犬がいるではありませんか？ ノンが居ない間、よその犬を預かったのだそうです。「あのね、うん

ちは中でしちゃダメよ！外でしてね！」って言っている真人君の声が聞こえてきました。そばで久美さんが「ばーばーの真似してるの！」と言つて笑っていました。

真人君にしてみると自分よりも小さくて、自分の目線以下で話せる犬は初めての経験。そのワンちゃんも自分よりも少し大きくてチョロチョロしている人間に会うのは初めて、お互い初めて同士の一人と一匹は戸惑いながらも気になる存在らしく楽しんでる様子。私も中に入りたいたのですが、どうしてもノンのイメージが強くて犬は苦手です。

副住職も大般若が終わったころには戻つてこれるとのこと、真人君の喜ぶ顔が目に見えるようです。ニャーン！

編集 雑感

二千二十年に東京で二回目のオリンピックが開催されるかどうか注目されています。そんな中で柔道女子日本代表選手にコーチによる体罰が明らかになり、コーチが辞任することとなりました。自分も学生時代、上級生による「愛の指導」という体罰を経験しましたから、体罰はもろろん反対です。

ただ、昨今のオリンピックが商業主義に走るあまり、コーチも結果を出さないと選手共々マスコミに税金のムダ使いとたたかれてしまい、ついつい焦つて手を出してしまつたのかも知れません。自分事ですが、昭和三十九年の「東京オリンピック」を中学生の時幸運にも見に行くことができ、東京都体育館

で体操、代々木体育館で水泳を応援して来ました。後日の映画やビデオで思い出すのは、水泳のアメリカの「ジョーランダー」で、彼は金メダルを四個も取りました。彼は医学部の学生で、後日医師になったと聞いています。

陸上の女子八百メートルの金メダルを取ったイギリスの「パッカー」は美しい選手でした。決勝ゴールを切つたまま婚約者の胸に駆け込んだことを覚えています。

当時のブランドジイOC会長は「ミスターアマチュア」と呼ばれ、プロの選手は参加出来なかつたのです。昨今のオリンピックの開会式は派手になり、「ボルト」選手のように賞金目当てで走る人や、サッカー選手は全員プロの選手です。

高校野球や箱根駅伝を見て感動するのは、選手たちが郷土愛、母校愛を持って頑張っているからではないでしょうか。全部が全部アマチュアにすべきとは思いませんが、少し原点に立ち返つてみるべきと思う気がします。

春は必ず来ます。元気で待ちましよう。 室賀清輝

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仕事のしきりや疑問（編集部や住職が答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、怒ったこと。